

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部		
	課名	防災安全課		
	係名	消防防災係		
	記入者		電話(内線)	281

1. 事業の概要					
(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	消防団員関係事業		(3) 事業の 優先度
					B
(4) 総合計画での位置づけ			(6) 事業主体		
① 事業の区分	主要事業			市	
② 施策コード	24402	(総合計画掲載 ^ハ -ゾ ^ニ 84 ^ハ -ゾ ^ニ)			
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)		(7) 予算・ 財源等 の種別		
基本施策	2-4安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)		事業の性質		
施策	④消防・救急体制の強化		会計区分		
施策内容	2消防団の活性化と団員確保		財源区分		
			予算科目		
			予算書上の		
			事業名称		
(5) 事業期間	開始	平成 27 年 4 月から	(8) 事務分類		
	終了	年 月まで (力年)	自治事務		
			根拠法令		
			消防組織法, 消防法		

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
結城市消防団員	消防団員の活動報酬, 福利厚生等の待遇を支えることにより, 消防団の体制が維持され, 災害対応能力が向上する
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
消防団員の福利厚生(報酬, 補償, 退職報償)を充実させ, 消防団員の確保と消防団の活性化を図る	全国的に消防団員確保には苦慮していることから, 福利厚生関係の充実を図っている
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
消防団に対する市民の期待は, 年々高まってきている	

3. 事業コスト					
行政評価 実施計画		実績内容の評価		検討・改善	
				検討・改善内容を反映	
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)		
	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
事業内容					
(1) 事務事業費の コスト	事業費				
	報酬	11,188	11,729		
	災害補償費	1,561	2,050		
	報償費	5,006	5,000		
	委託料(健康診断)	391	548		
合計	18,146	19,327			
財源	国庫支出金 (千円)				
	県支出金 (千円)				
	地方債 (千円)				
	その他特定財源 (千円)	6,567	7,050		
	一般財源 (千円)	11,579	12,277		
合計 (千円)	18,146	19,327			
補助・起債制度名	消防団員退職報償金 受入金/公務災害補償 /福祉共済金	消防団員退職報償金 受入金/公務災害補償 金/福祉共済金			

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	退職報償金受給者	目標値		40	45	50	50
		実績(見込)値	17	40			
指標名	健康診断受診者	目標値		70			
		実績(見込)値	50	70			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	消防団員数	目標値		300	300	300	300
		実績(見込)値	264	266	270	270	270
		達成率	88.0 %	88.7 %			
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率	%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	地域における消防団の果たす役割は、非常に大きい。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	
	手段の妥当性	A	妥当である	
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	近年、永年勤続者の退職があるため、受給額が多くなっているため、コスト面については、効率化が図られている。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	団員のサラリーマン化が進んでいることから、健康診断の受診者が減少傾向にあったため、本年度は土曜日開催したが効果が見られなかった。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	団員数確保に関しては、微増ではあるが成果が見られる。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

団員確保に関して、自治会や後援会に協力をお願いしているところではあるが、苦慮しているという意見が多数見受けられる。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

消防団の活動自体を見直し、団員の負担軽減を図っていく。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	地域防災の充実強化に関する法改正に伴い、装備等の充実を図り、消防団への支援事業やPR活動を推進し、団員確保につながる環境づくりを図る。また、サラリーマン団員の増加に対する施策を継続していく。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。